

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 11 日

評価対象事業		評価者	文化人権課担当課長 藤田聡一郎	
共創-24	実施事業	■ 自治事務 □ 法定受託事務	主管課	文化人権課
	まち・ひと・しごと		関連課	
総合計画上の位置付け	分野	文化	施策の方針	文化活動の支援・推進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	鏑木清方の作品等を展示公開及び維持・管理し、鏑木美術品等の調査及び研究を行うため。
効果	鏑木清方の業績を後世に伝える。市民の教育、学術及び文化の発展に資する。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者制度により、鏑木清方記念美術館の効率的な管理運営を行った。 指定管理者との役割分担に応じた施設の維持管理を行った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算	01年度(2019年度)決算	データ区分	02年度(2020年度)当初予算	備考
人口等のデータ	人口	176,308人	人口	176,608人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世帯数	81,763世帯	世帯数	83,058世帯	
	事業の対象者数	22,444人	事業の対象者数	20,482人	
運営資源状況	決算値(千円)	68,496	当初予算(千円)	64,333	
	国県支出金	2,743	国県支出金		
	地方債	13,300	地方債		
	その他		その他	15,000	
	一般財源	52,453	一般財源	49,333	
	人員配置数	0.7	人員配置数	0.7	
事業経費運営	総事業費(千円)	74,068	総事業費(千円)	69,952	
	市民1人当りの経費(円)	420	市民1人当りの経費(円)	396	
	対象者1人当りの経費(円)	3,300	対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	1. ある
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	○-1. 既に受益者負担を求めているが、今後、その額や対象等を再検討する必要がある
		○-2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○. 協働実施済
		協働実施済の場合のパートナー 市民、市民団体

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す → <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他	見直しの内容	事業へ統合
	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	引き続き、指定管理者制度と連携しながら効率的な管理運営と施設の適切な維持管理を行っていく。		

総評(評価に対する考え方、根拠等)	効率性については、委託料削減の可能性があるため、「事業費の削減余地」は「ある」とした。 鏑木清方記念美術館は、本市にゆかりのある近代日本画の巨匠、鏑木清方の作品を展示し、その功績を伝える場であり、また、日本画を描くワークショップなどの体験を通して伝統を伝え、本市の文化振興に寄与している。令和元年度は、新型コロナウイルス感染拡大のための休館したこともあり、前年度と比較して来館者数が減少したものの、安定した来館者数を確保できていることから、妥当性については、「市民ニーズ」は「変わらずにある」とした。また、有効性については、「概ね成果が出ているが、更なる努力は必要である」とした。市民等との協働事業は専門知識の講義を受けたボランティアのサポートスタッフが、美術館展示解説活動等に参加したり、大学との連携や市民参加による客員研究員が、市民講座での講義・叢書に関する調査研究事業、作品の英文紹介等の美術館事業に携わった。NPOと協働で、親子ワークショップや紫陽花イベントを実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、事業内容などを指定管理者と協議し、充実を図っていく。 今後も業務の見直しを行うとともに、効率的なPR、広報活動に努めていく。
-------------------	--

令和元年度(2019年度)事業実施にあつた課題(前年度未解決の事項を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 来館者数増加のため、令和元年度も企画内容やPR方法を検討する。 鏑木作品等を災害から守るための方策、今後想定される収蔵庫の容量不足を踏まえた鏑木作品等の管理方法等について、具体策が見い出せていない。 	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	<ul style="list-style-type: none"> 展示企画や普及事業の周知を効率的に行うため、各種メディアへのPRを行った。 館外のイベントへの講師派遣を行い、美術館をPRした。 他館との連携事業を行い、新たな来館者の獲得に努めた。 他館展示の企画協力をし、鏑木清方への関心の高まりの機運醸成に努めた。 市内小中学校の夏期・春期休暇に合わせ親子鑑賞を実施し、子どもの来館を促進した。 ホームページの多言語化により、外国人の来館者増加に向けた取り組みを行った。 指定管理者と施設における課題等について定期的に協議を行った。 	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	<ul style="list-style-type: none"> 鏑木作品等を災害から守るための方策、今後想定される収蔵庫の容量不足を踏まえた鏑木作品等の管理方法等について、具体策が見い出せていない。 	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	管理運営事業費・来館者数(R01・2019)										
団体名	鎌倉市 鏑木清方記念美術	鎌倉市 茅ヶ崎市美術館	茅ヶ崎市 茅ヶ崎市美術館								
他市実績	48,548千円	96,955千円									
	20,482人	20,651人									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方											

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	来館者数(年度)	単位	人	指標の傾向	備考			
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
より多くの市民等に施設を利用してもらうため。	目標値	28,500.0	25,000.0	25,000.0	25,000.0	25,000.0	25,000.0	
	実績値	22,272.0	29,737.0	23,633.0	22,012.0	22,444.0	20,482.0	
	達成率	78.1%	118.9%	94.5%	88.0%	89.8%	81.9%	
当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	平成27年度(2015年度)から同規模の施設に合わせた目標値に改めた。令和元年度は目標値を下回る結果となり、今後も安定した来館者数の獲得が課題である。							